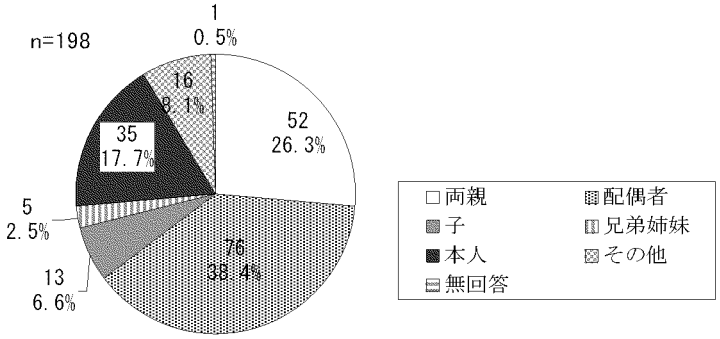
第4章　本人調査

ここでは、高次脳機能障害者の現在の生活状況や公的支援の受給状況を把握するとともに、今後望まれる支援サービスなどについて明らかにする。

(1)回答状況・記入者について 問1

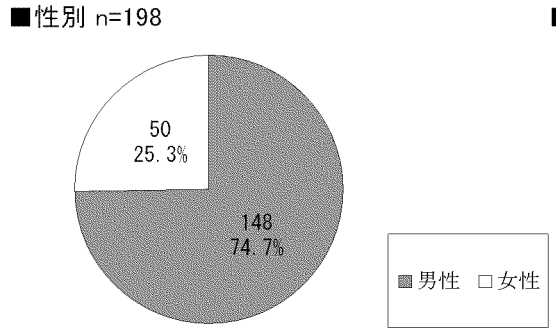
調査票の回収は、938箇所の医療機関に協力依頼し、全部で198件の回答を得た。
また、記入者は配偶者が76人（38.4%）で一番多く、次いで、両親が52人（26.3%）であった。

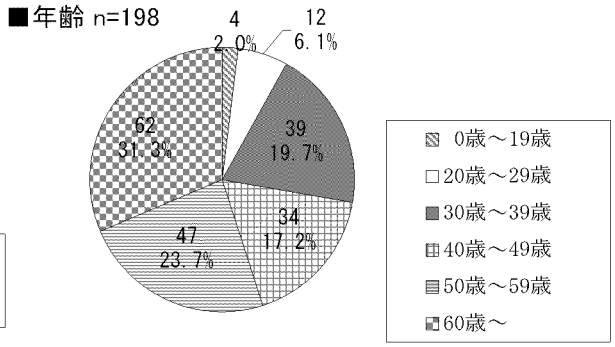


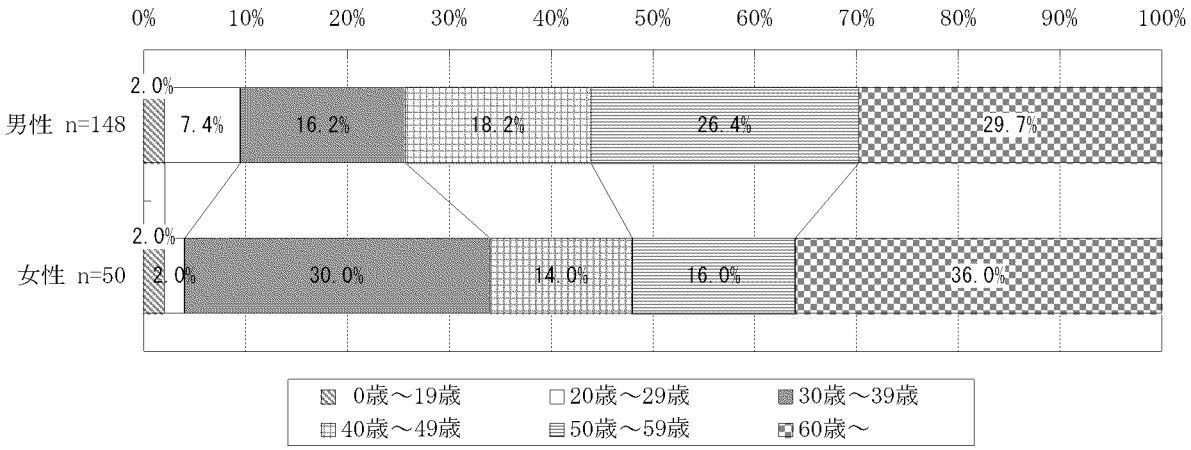
(2)本人について

1）性別と年齢 問2、問3

性別は男性が148人（74.7%）、女性が50人（25.3%）であり男性の方が多かった。
年齢別にみると60歳以上が62人（31.3%）で多く、男女別にみても同様であった。また、平均年齢は51.0歳であった。

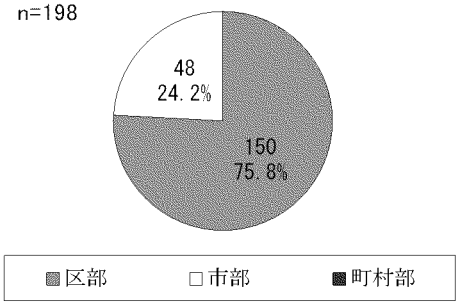






2）現住所 問4

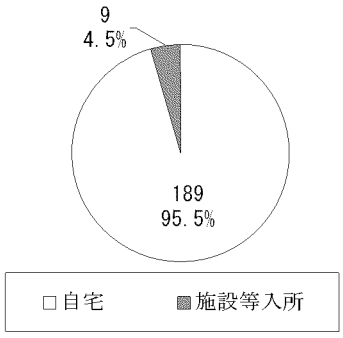
回答者を地域別にみると、区部が一番多く150人（75.8%）であった。市部は48人（24.2%）で、町村部は回答者がいなかった。



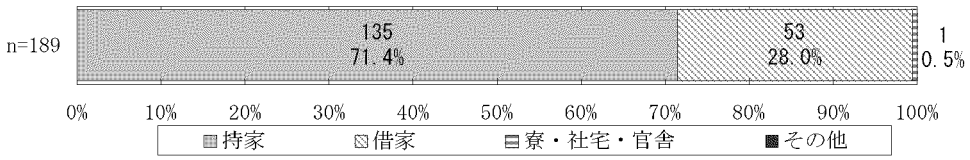
3）居所 問5

現在の居所は自宅が189人（95.5%）であり9割以上を占めていた。
また、自宅のうち、135人（71.4%）が持家で一番多かった。

■全体 n=198



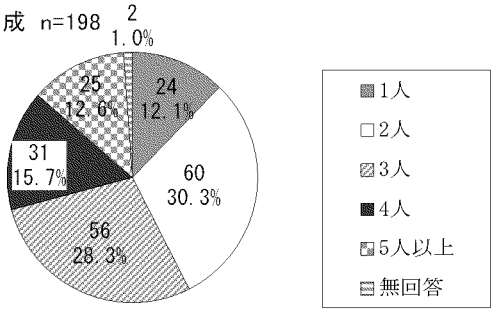
■自宅内訳



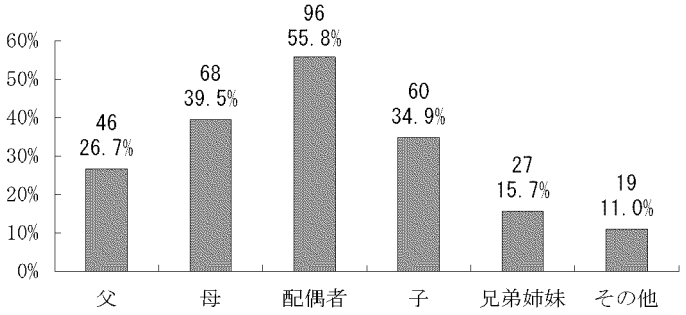
4）家族構成 問6

家族構成は、一人暮らしの方が24人（12.1%）で、誰かと同居している方が172人（86.9%）であった。同居している家族のうちでは、2人暮らしが60人（30.3%）で多かった。
また同居している家族は、配偶者96人（55.8%）が一番多かった。なお、対象者の平均家族人数は、2.9人であった。

■家族構成 n=198



■同居の内訳　n=172

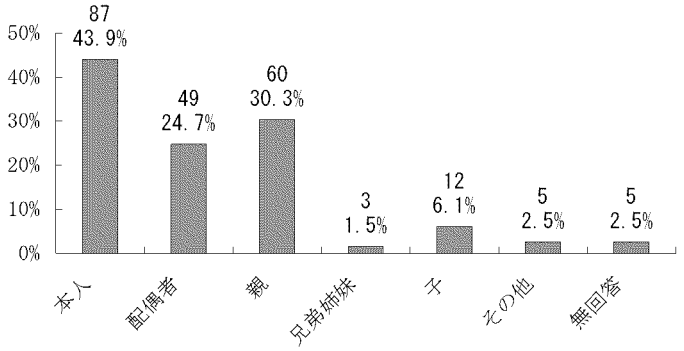


※複数回答

5）主に生計を立てている人 問7

主に生計を立てている人は、本人が一番多く87人（43.9%）であった。次いで、親が60人（30.3%）であった。

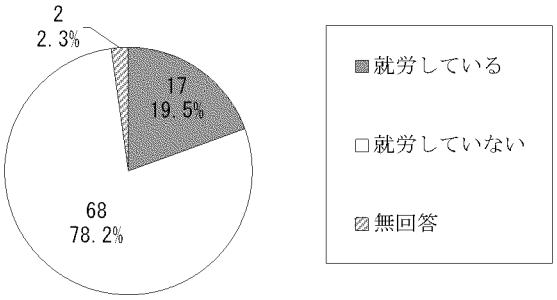
n=198



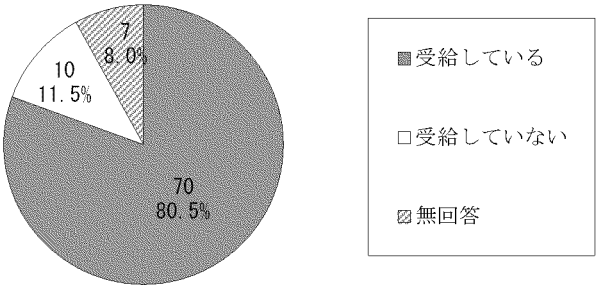
※複数回答

本人が主に生計を立てている場合、本人が現在就労している方は17人（19.5%）であった。また、公的支援を受給している方は70人（80.5%）であった。

■主に生計を立てている方が本人の場合の就労状況　n=87



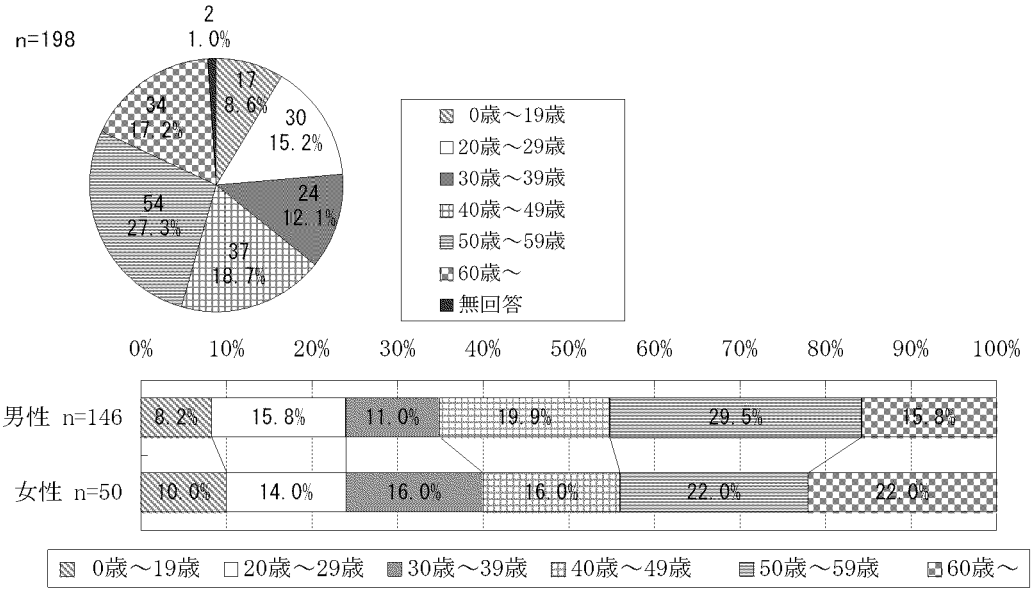
■主に生計を立てている方が本人の場合の公的支援の受給状況　n=87



(3)障害の状態について

1）脳損傷の発症（受傷）年齢 問8

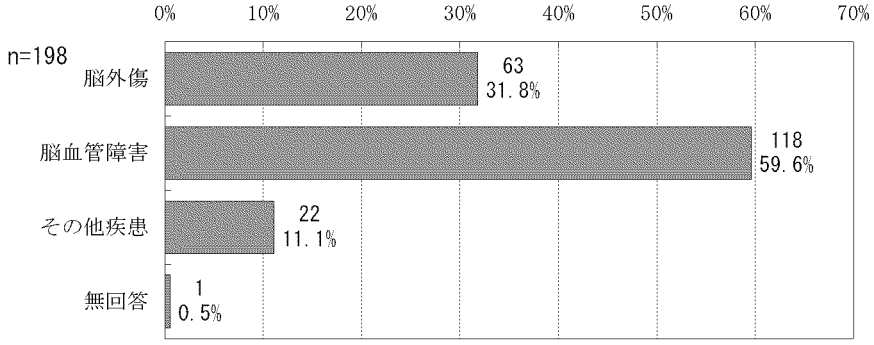
高次脳機能障害の原因である脳損傷を発症（受傷）した年齢は、50～59歳が一番多く54人（27.3%）であった。性別でみると、男性は50～59歳が一番多く、女性は、50～59歳及び60歳以上が多かった。
また、平均発症（受傷）年齢は45.1歳であった。



無回答:2

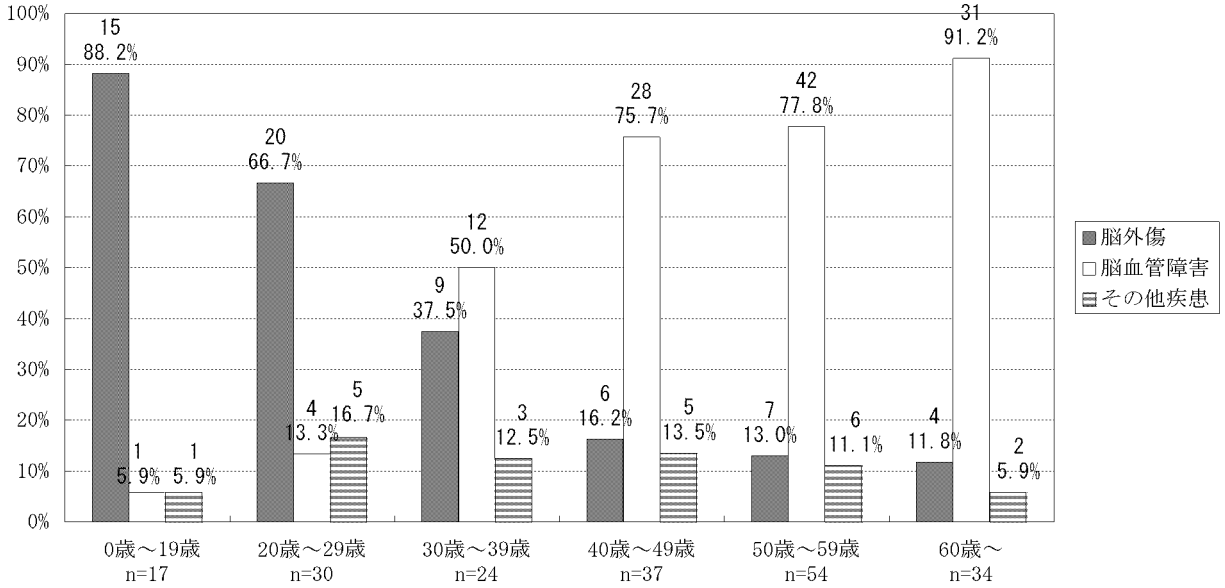
2）高次脳機能障害の原因疾患 問9

高次脳機能障害の原因疾患は、脳外傷が63人（31.8%）、脳血管障害が118人（59.6%）、その他疾患が22人（11.1%）であり、脳血管障害が一番多かった。
また、発症（受傷）年齢別にみると29歳までは脳外傷が多く、30歳以上では脳血管障害が多かった。



※複数回答

■発症（受傷）年齢別の原因疾患



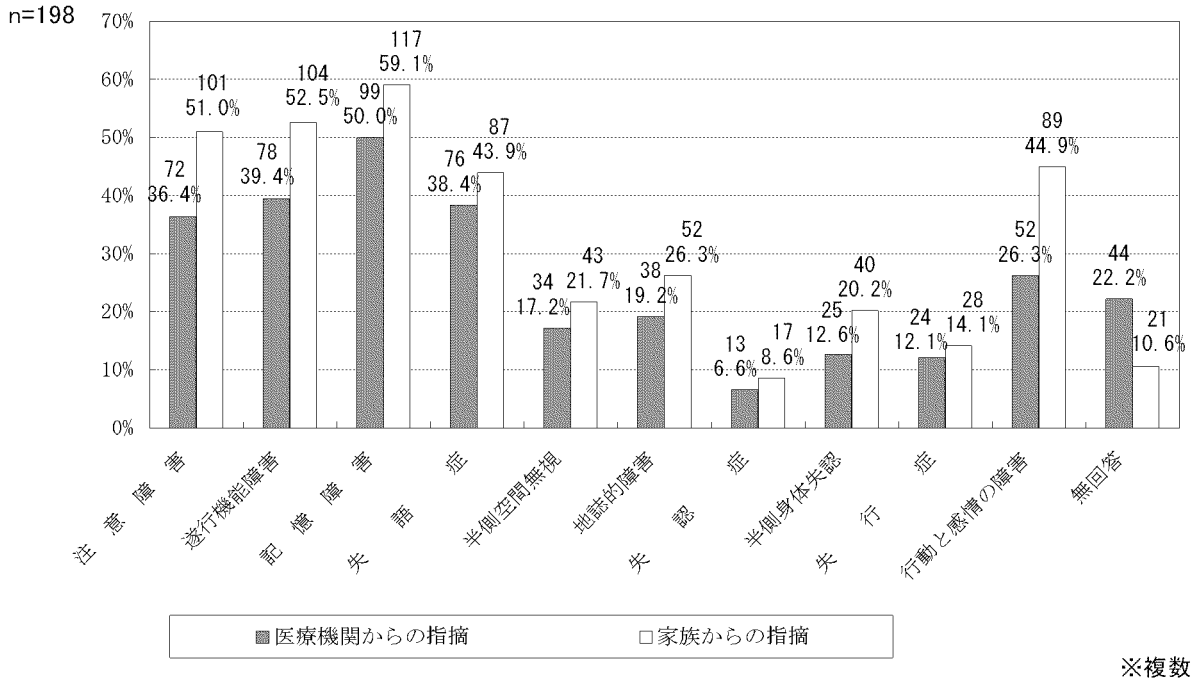
※複数回答

※原因疾患が複数の場合は、それぞれに人数をカウントしている。

３）高次脳機能障害 問10

高次脳機能障害の内容として、記憶障害が一番多く、医療機関からの指摘で99人（50.0%）、家族からの指摘で117人（59.1%）であった。

また、全ての項目において、病院側からの指摘よりも家族が実際に感じる障害が上回っており、注意障害、遂行機能障害、行動と感情の障害においては特に認識の差が見られた。



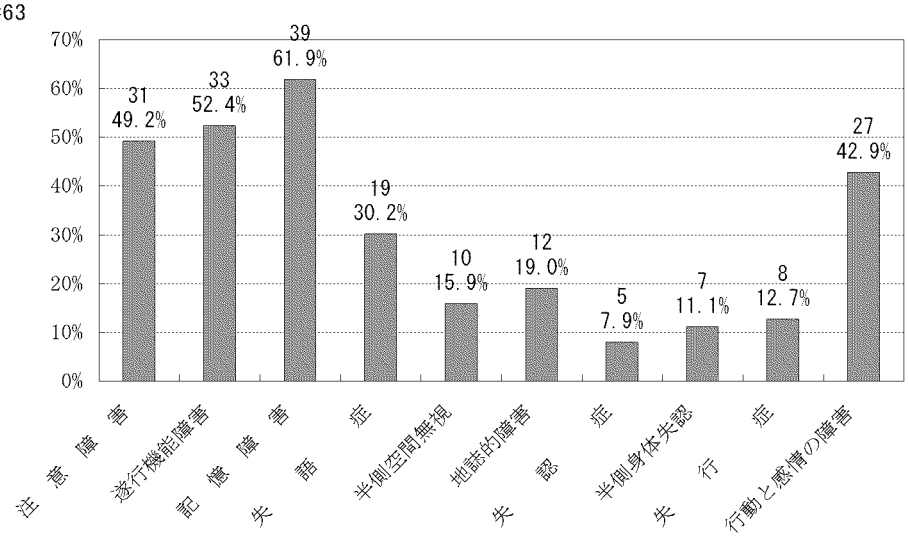
※複数回答

また、発症（受傷）の原因疾患別に各障害を比較すると、いずれの場合でも、記憶障害が一番多かった。

２番目に多かったのは、脳外傷では遂行機能障害、脳血管障害では失語症、その他疾患では記憶障害と並んで注意障害であった。

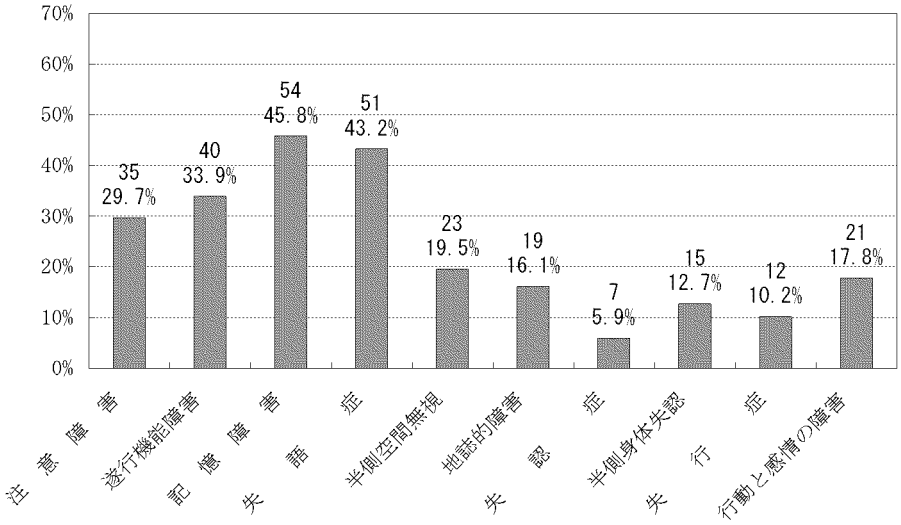
■原因疾患別の高次脳機能障害の傾向（医療機関からの指摘）

a. 脳外傷 n=63



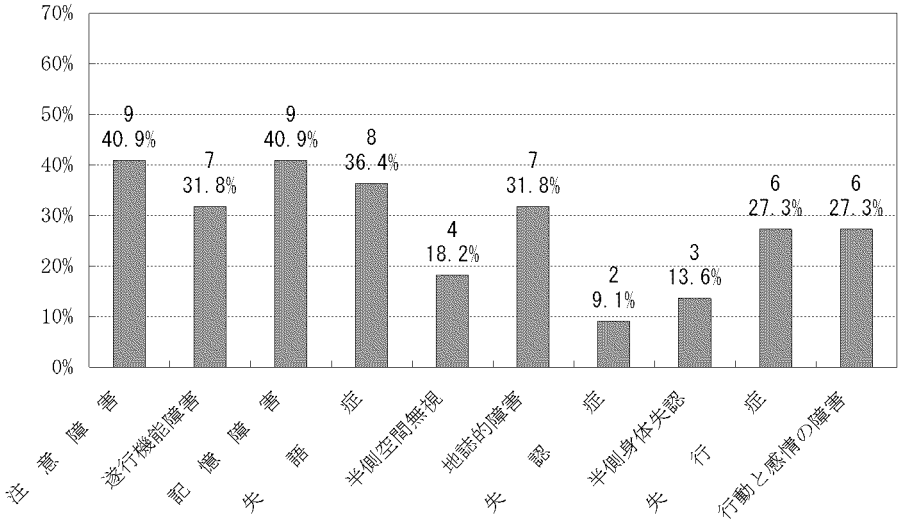
※複数回答

b.脳血管障害 n=118



※複数回答

c.その他疾患 n=22

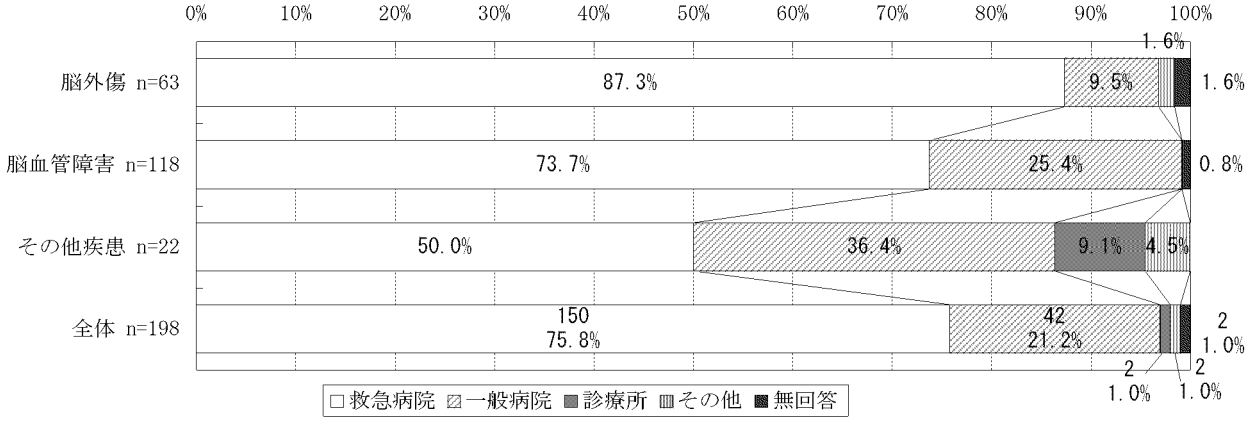


※複数回答

4）最初にかかった医療機関 問11

①医療機関

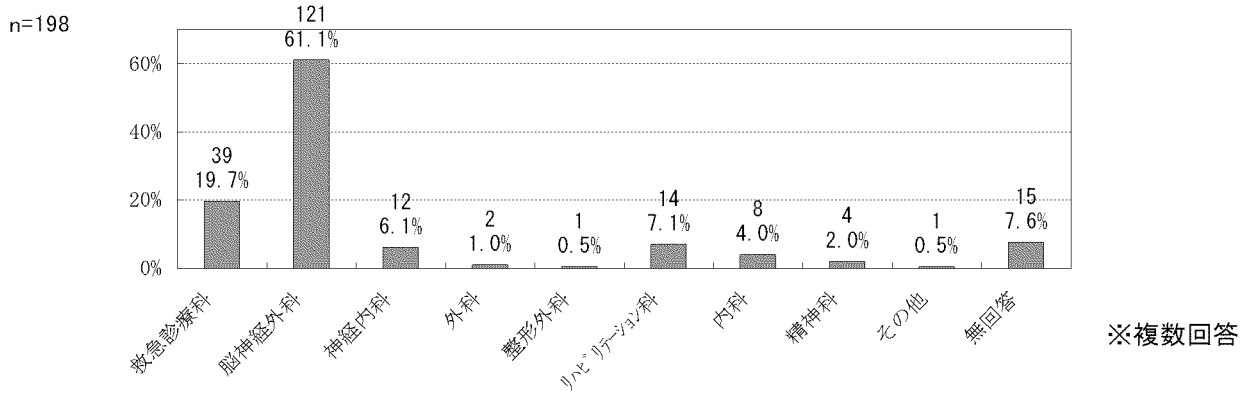
発症（受傷）後に最初にかかった医療機関は、救急病院が150人（75.8%）で最も多く、次いで一般病院42人（21.2%）であった。また、原因疾患別においても救急病院が一番多く、次に一般病院が多かった。なお、脳外傷及びその他疾患における「その他」は、いずれも海外の病院での診療であった。



②診療科

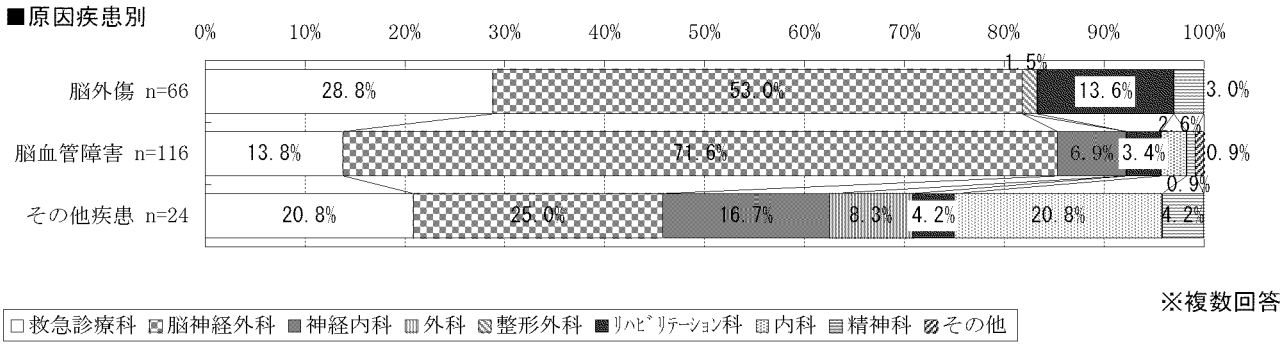
発症（受傷）後に最初にかかった診療科は、脳神経外科121人（61.1%）で半数以上を占めた。また、次に多かったのは救急診療科で39人（19.7%）であった。

原因疾患別にみても、脳神経外科が最も多かった。



※複数回答

■原因疾患別



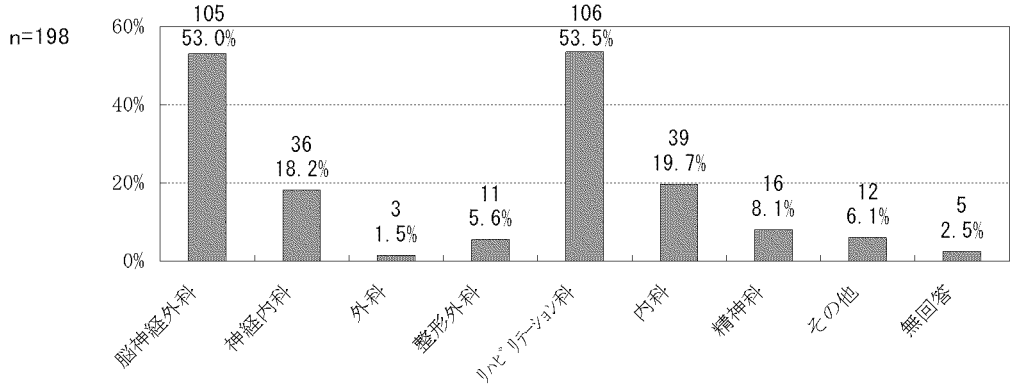
※複数回答

※原因疾患が複数の場合は、それぞれに人数をカウントしている。

5）現在かかっている診療科 問12

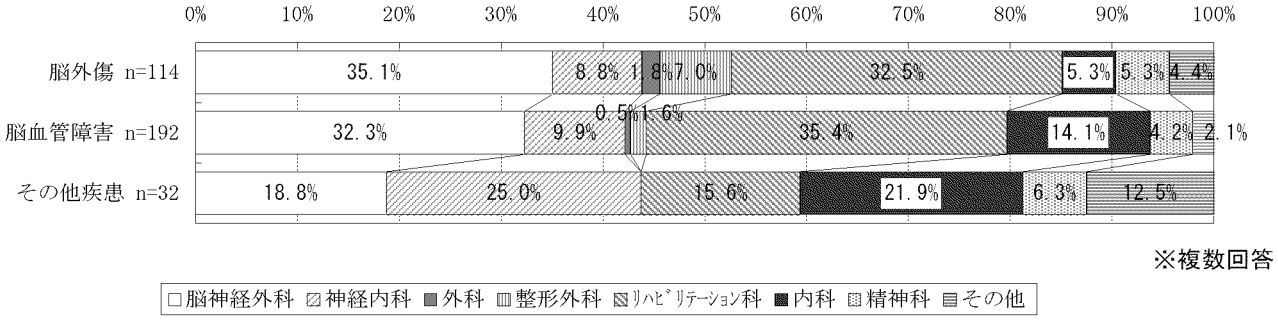
高次脳機能障害者が通院している診療科は、リハビリテーション科106人（53.5%）及び脳神経外科105人（53.0%）が多かった。

また、原因疾患別にみると、脳外傷及び脳血管障害はリハビリテーション科が一番多く、その他疾患は神経内科が多かった。



※複数回答

■原因疾患別



※複数回答

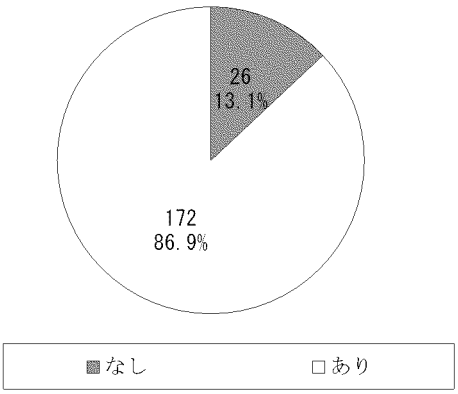
※原因疾患が複数の場合は、それぞれに人数をカウントしている。

6）転院の状況 問13

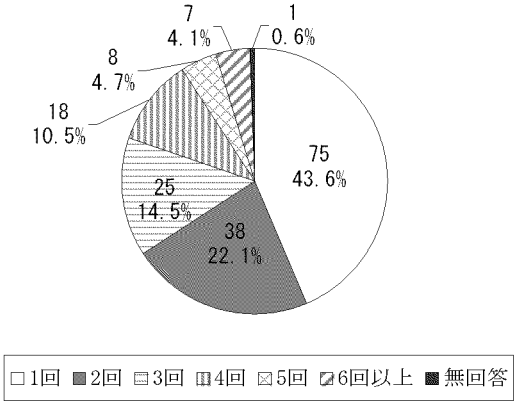
転院したことがある方は172人（86.9%）であり9割弱であった。また、転院回数については1回が75人（43.6%）で一番多く、次いで2回が38人（22.1%）であった。

転院理由はリハビリを理由とする方が93人（54.1%）で半数以上を占め、入院日数による転院が19人（11.0%）、自宅からの距離<受傷した場所が遠かった場合も含む。>が19人（11.0%）であった。

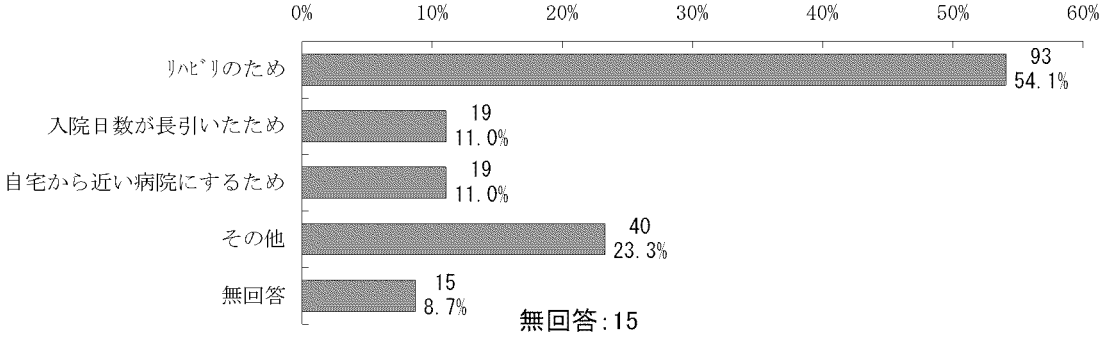
■転院の有無 n=198



■転院回数 n=172



■転院理由　n=172

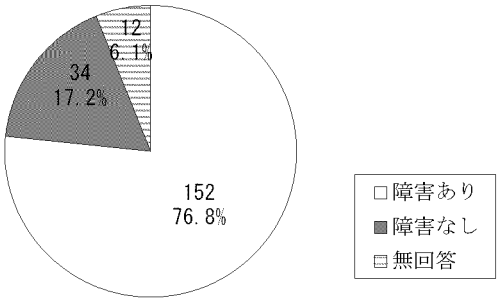


※複数回答

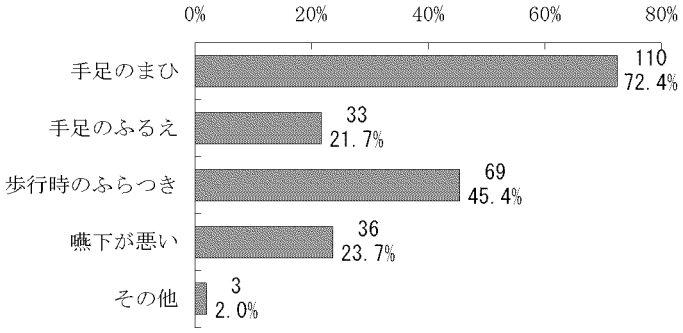
7）身体の障害 問14

身体に障害のある方が152人（76.8%）いた。また、障害の内訳としては手足のまひが一番多く110人（72.4%）であった。

■障害の有無　n=198



■障害の内訳　n=152

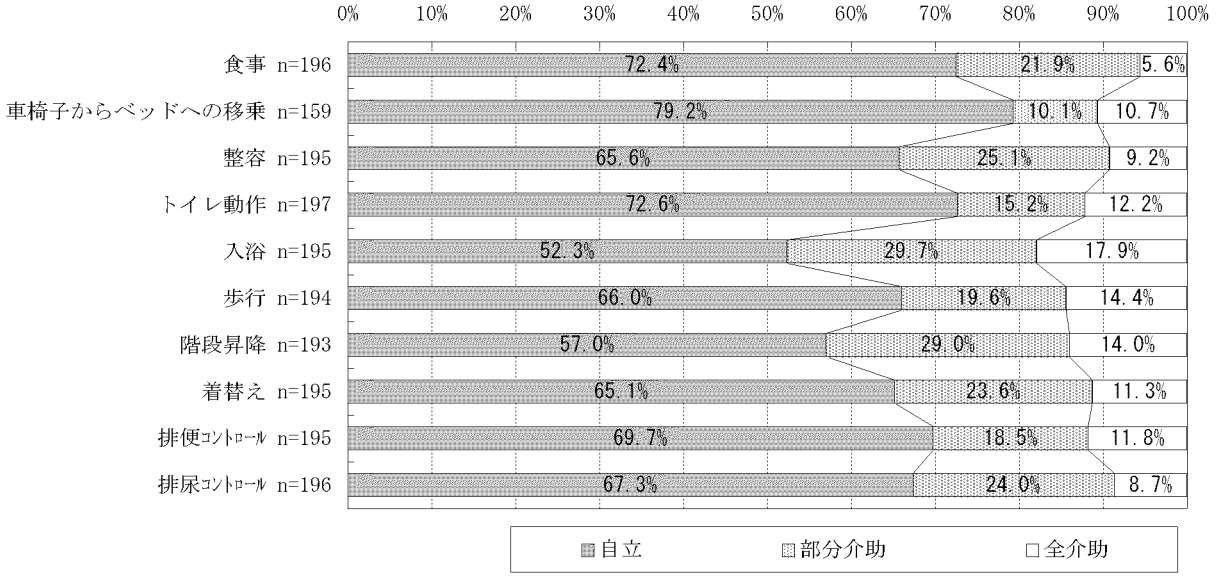


※複数回答

8）日常生活能力 問15

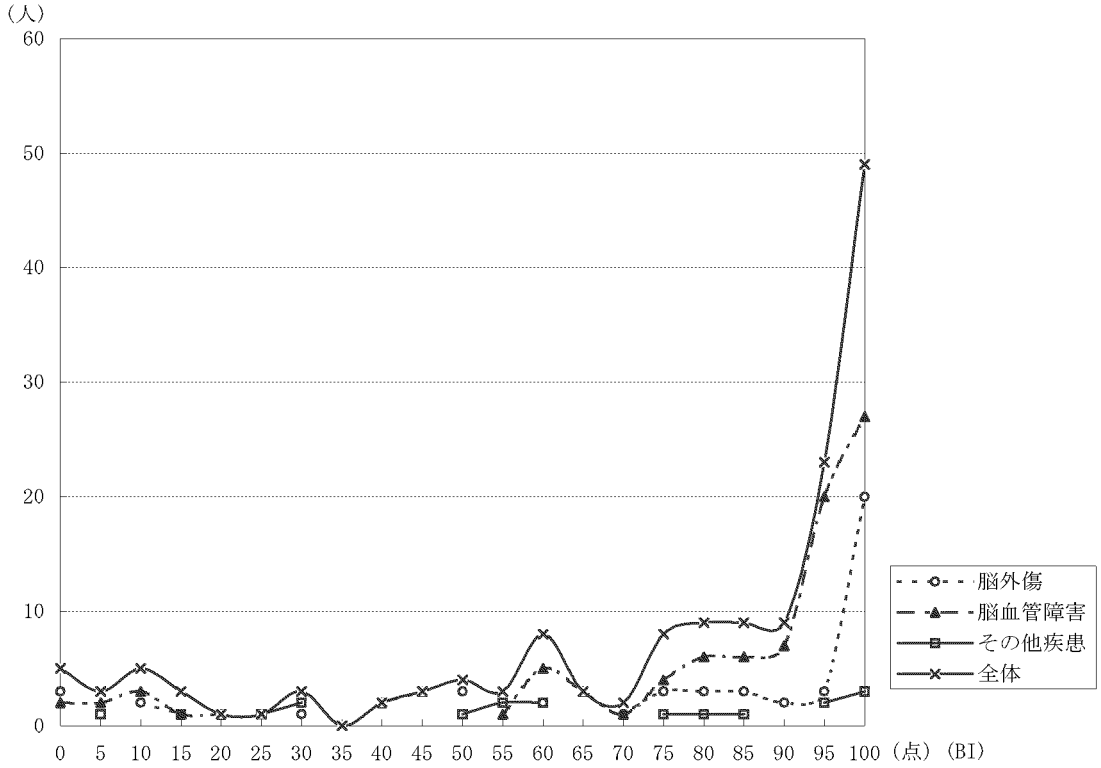
日常生活能力は、入浴や階段昇降については一部介助や介助を必要とする場合が半数を占めたが、その他の日常生活においては自立している患者が６割～８割を占めた。また、バーセルインデックスは0～55点が33人（21.6%）、60点～75点が21人（13.7%）、80点～100点が99人（64.7%）であった。

■日常生活能力



■バーセルインデックス（BI）

n=159

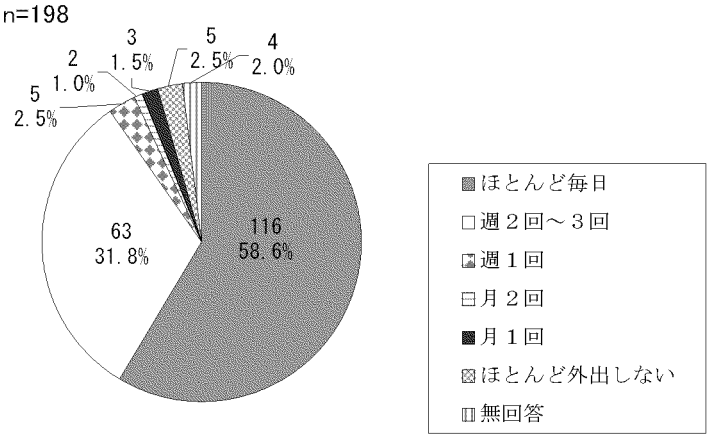


９）外出状況について 問16

①現在の外出頻度

外出頻度はほとんど毎日外出するが116人（58.6%）で一番多く、次いで週２～３回が63人（31.8%）であった。また、外出頻度が週１回以下の方は、15名（7.6%）であった。

n=198

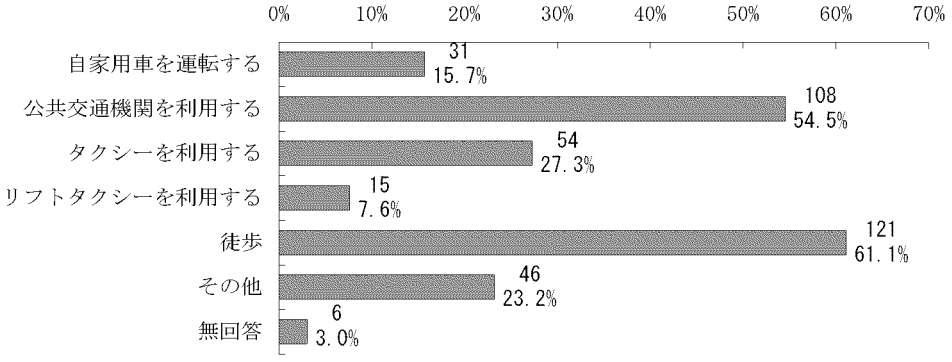


②外出方法

主な外出方法は、徒歩での外出が一番多く121人（61.1%）であり、次いで公共交通機関を利用している場合が108人（54.5%）であった。その他の外出方法ではデイケア等の通所バス（24人）が多かった。

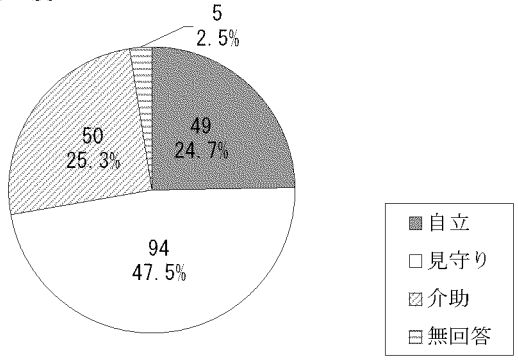
また、外出時の自立度については「見守りもしくは介助が必要」が144人（72.7%）であった。

■外出方法 n=198



※複数回答

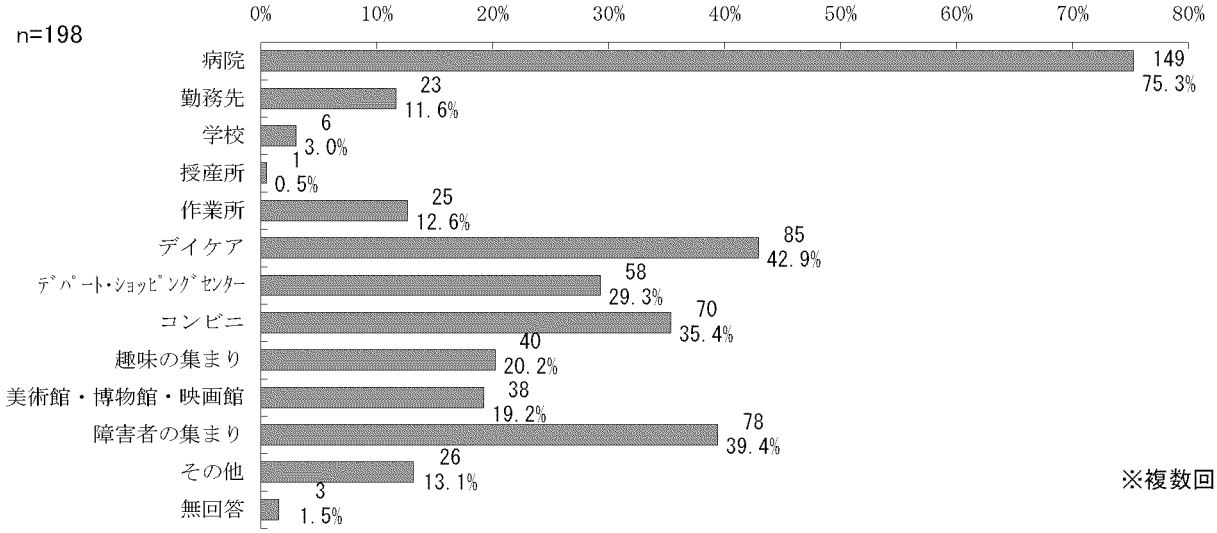
■自立度 n=198



③主な外出先

主な外出先は、病院が149人（75.3%）で一番多く、次いでデイケアが85人（42.9%）、障害者の集まりが78人（39.4%）であった。その他では「散歩」や「近所へ買物」があった。

n=198

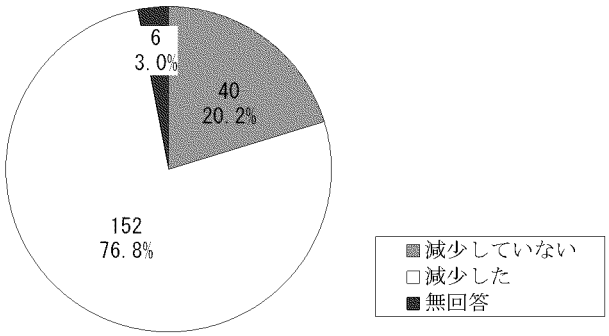


※複数回答

10）発症（受傷）前との外出頻度の比較 問17

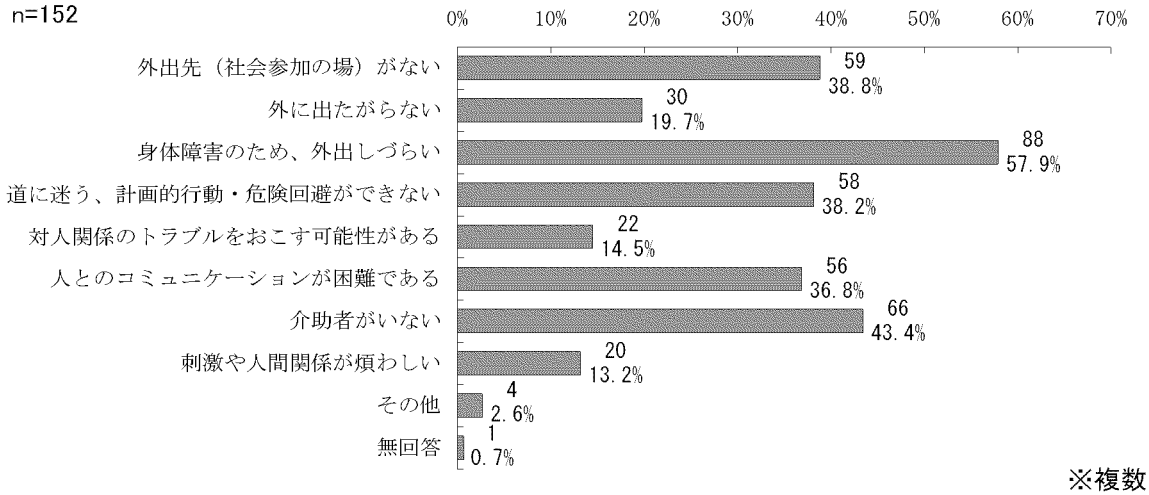
発症（受傷）前との外出頻度を比較すると、152人（76.8%）の方が外出頻度が減少していた。また、外出頻度が減った理由として「身体障害のため、外出しづらい」が88人（57.9%）で一番多く、次いで「介助者がいない」が66人（43.4%）であった。

■発症（受傷）前との外出頻度の比較　n=198



■外出頻度が減った理由

n=152

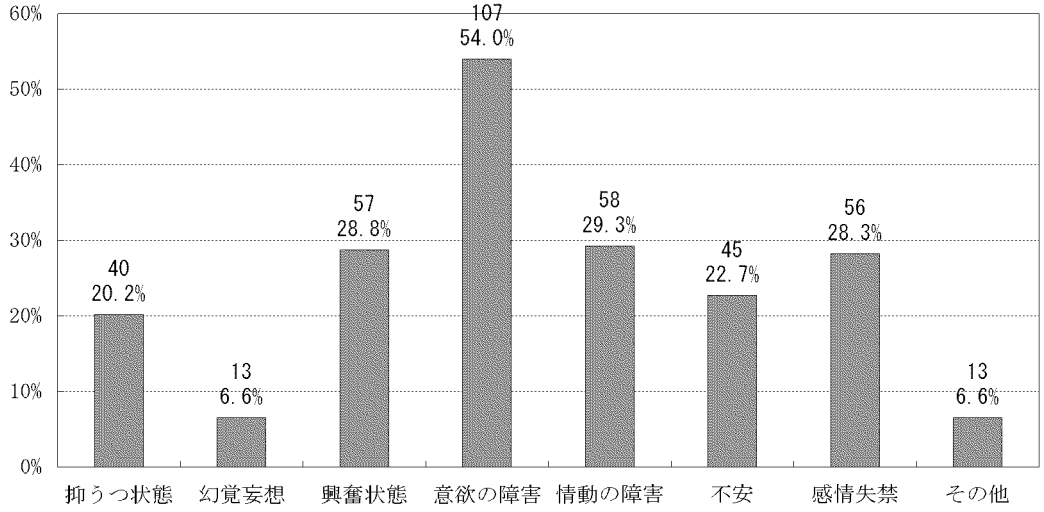


※複数回答

11）感情面での変化 問18

発症（受傷）後の感情面の変化は、意欲の障害が一番多く107人（54.0%）、次いで情動の障害が58人（29.3%）、興奮状態が57人（28.8%）であった。

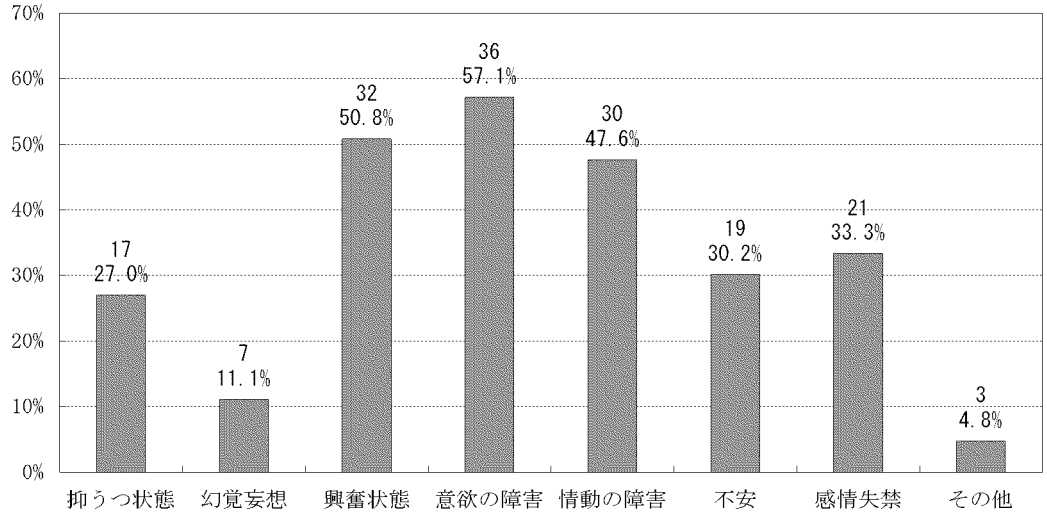
n=198



※複数回答

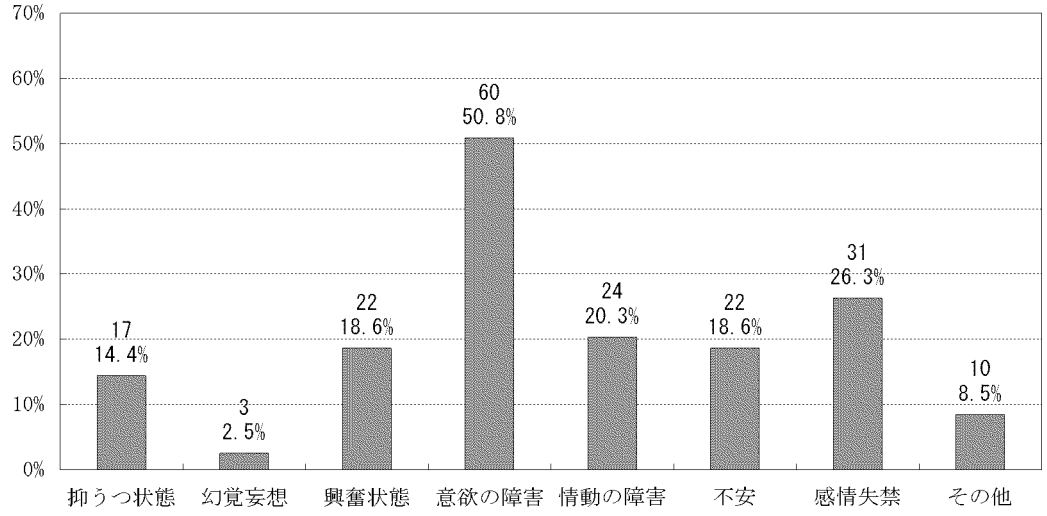
また、原因疾患別にみるといずれの場合も意欲の障害が一番多かった。次に多かったのは、脳外傷では興奮状態、脳血管障害では感情失禁、その他疾患では不安であった。

a. 脳外傷 n=63



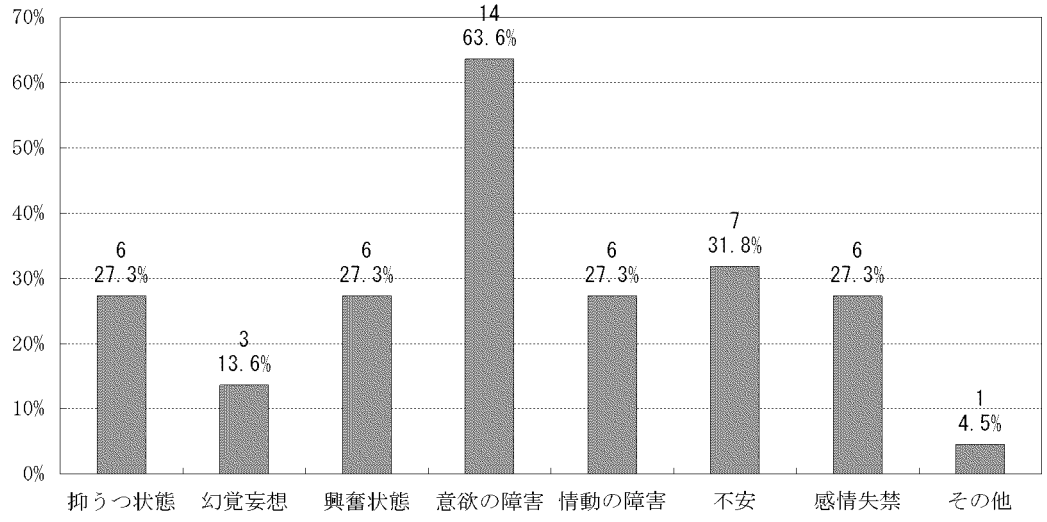
※複数回答

b.脳血管障害 n=118



※複数回答

c.その他の疾患 n=22



※複数回答